

# 旧幕府陸軍の解体と静岡藩沼津兵学校の成立

樋口 雄彦

The Dissolution of the Shogunate's Army and the Establishment of the Numazu Military Academy in the Shizuoka Feudal Domain

はじめに

- ①三兵士官学校と沼津兵学校—旧幕府陸軍との断絶と連続—
- ②幕府陸軍の解体から沼津兵学校の発足へ
- ③沼津兵学校付修行兵と静岡藩における常備兵の不在  
おわりに

[提要]

徳川幕府の後身たる静岡藩が明治初年に設立した沼津兵学校が、士官養成機関としての進化という、さわめて限定された範囲において、幕末に幕府によって推し進められた軍制改革の最終到達点であるとする評価に誤りはない。しかし、一地方政権である静岡藩と中央政府である幕府との根本的な違いにより、軍制全般においては決して直線的な継承関係をなしていなかつた。脱走・壊滅し自然に消え去つた海軍は別として、陸軍については、幕府時代に生み出された膨大な兵力は静岡藩では不要とされ、大規模なリストラが実施された。幕府の軍備増強政策は、静岡藩では一転して軍縮路線へと変更されたのである。量的な問題のみならず、質的にも継承されなかつたものが少くない。

本稿では、まず、沼津兵学校と、幕府が幕末段階で設立した三兵士官学校との継承関係の有無について検討する。そして、前者が、フランス軍事顧問團の指導により生まれた後者とは、人的にも組織的にも継続性がないことを明らかにする。

次に、慶応四年（一八六八）五月・六月以降に始まつた旧幕府陸軍の解体と再編の過程、静岡藩軍制の成立過程を点検する。幕府瓦解後、とりわけ慶応四年五月以降の陸軍組織の変遷については、「続徳川実紀」、「柳營補任」、「陸軍歴史」といった既存の諸文献には記載がない。つまり、旧幕府陸軍が静岡藩軍制へ接続する途中経過につ

いては、文献上空白であったといえるが、本稿ではその時期の実態を明らかにする。

また、生育方・勤番組という不勤・無役者集団を維持しながら常備兵を擁さないという特殊な軍事体制を採用した静岡藩の特徴を、沼津兵学校との関わりの中で考察する。明治三年（一八七〇）沼津兵学校に付置された修行兵という存在が検討対象である。これは、政府の命令によって設置することとされた常備兵三〇〇〇人に相当するものと思われるが、その実態は、定数によるかに足りなかつたばかりでなく、単なる兵卒ではなく下士官候補者であつた。

静岡藩は、幕府陸軍時代の多くの遺産を切り捨てるべく努力を重ねたが、一部の良質な部分については的確に引き継いだ。また、旧幕府陸軍にはなかつた新たな人脈と発想を受け加え、したたかに明治政府に対した。それが、沼津兵学校であり、修行兵の制度であった。徴兵という形で庶民を軍事に取り込めたか否かという点においては、政府・他藩に遅れをとつた静岡藩であるが、士官教育、さらには普通初等・中等教育という非軍事面において、全国をリードする先進性を示したのである。つまり、軍事部門よりも教育部門において近代化が先行したのであり、沼津兵学校は、「兵」学校であるよりも、兵「学校」であることを象徴する存在であつた。